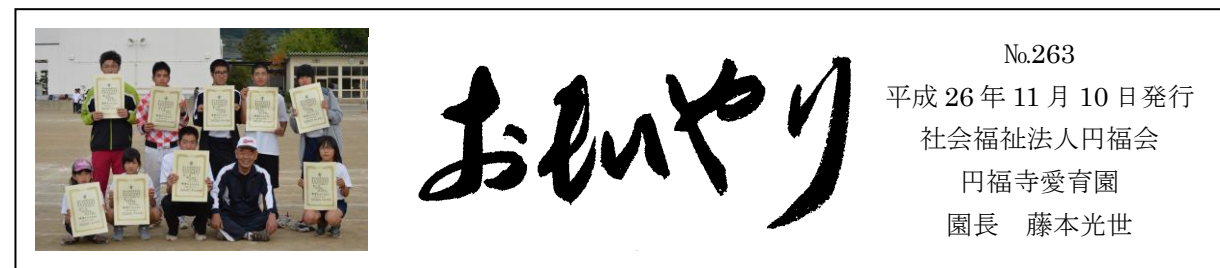


マラソン入賞者。高校男子は3位まで独占。練習の成果が表れました。



行事の目的

園長 藤本光世

愛育園ではたくさんの行事ができるようになりました。毎月1度は大きな行事があります。最近では、9月末に第一回円福寺愛育園運動会がありました。11月2日には愛育園祭がありました。いずれも大成功に終わりました。全員の子も達が生きて動き、とっても感動しました。

愛育園祭については、12月号に譲りましょう。職員も、子ども達も熱気が冷めないうちに原稿を用意して欲しいと思います。

行事の意味は、日常の生活に返すことにあります。普段の生活がきちんとできないで、立派な行事はできません。また、行事で活躍したことを日常の生活に生かさなければ意味がありません。そう思うと、行事の中で子どもを観る力はとても大切です。子どもの何を見ているか、これでその後の生活へのかかわりが違ってきます。

施設運動会で青谷副園長は誰を見ていたでしょうか。それは、出番があまりなかったし、マラソンではラストスパートで他の施設の子を抜いたものの、あと一息のところで賞を逃がしてしまって、テントの下を動かず、全ての競技を一番熱心に応援していたK君だったのです。そして、まとめの会で、彼を本気で褒めたのです。彼は、どのくらい嬉しかったのでしょうか。このような取り組みを通じて、彼の生活は落ち着いてきているのです。暴言を吐いたり、物に当たったりしたこと、他人の物を持って来てしまうことなど、全くなくなっているのです。それは、奇跡とも言えるでしょう。

このように青谷副園長が見てくれていることを知って、子ども達は人のために尽くすことの尊さを実感するのです。だから、テントをたたむ時も、後片付けも全員で動きが素早くすぐにできてしまうのです。愛育園祭では、女子中高生職員の書道パフォーマンスの巨大な板の片付けを、男の子が率先して、あっという間にやってしまうのです。なんと、素晴らしい子ども達が育っているのでしょうか。

このようなことは、全ての行事（競技）に全力で取り組み、最高のものを創り上げるという当園の姿勢から生まれていると確信しています。残念なことに、施設運動会のダンスで、ある施設の数名の男性職員はお面をつけて踊っていました。おちゃらかしです。ダンスはその質を見てもらうのです。一生懸命練習してきた、他の施設の子も達や職員がそれを見てどう思うのでしょうか。その

職員を見た、その施設の子もはどう思うのでしょうか。施設運動会は遊びだと思ってしまう。おちゃらかしたパフォーマンスの場と思ってしまう。それは、施設運動会の意義を低めるのです。当園はそのようなことは絶対にやりません。全力で練習を積み重ねたことが、マラソンで男子高校生は3位までを独占し、合計9名もの入賞者を出したのです。百足リレーは惜しくも2位で優勝を逃しましたが、その練習と健闘は称えられます。そして、児童対抗リレーは3位に、お楽しみリレーも2位に入賞しました。賞状がもらえるリレーにすべて入賞したのは、愛育園だけでした。

これからも、最高の行事を創り出し、子ども達の生活に返していきます。

東北信地区施設運動会



副園長 青谷 幸治

今年も10月4日に施設運動会が行われました。今年の運動会に対する意気込みが昨年とは全く違うことが児童、職員から読み取ることができました。それは、1か月前から3kmのマラソンを休まず取り組んできたこと。百足リレーや児童対抗リレーの練習をしてきたこと。常に各競技も優勝を目標に取り組んできました。

そしてもう一つ大きな要因が一週間前に行われた愛育園運動会でした。愛育園運動会で子ども達の士気は高まっており、目標をもって取り組むことの大事さや努力し続けた先にある達成感を味わうことを少しは肌で感じる事ができたからだと思います。すべての競技に全児童、職員が力を出し切りました。自分には関係ない競技でも愛育園のために声をからしながら応援する高校生の姿もありました。地味な仕事でもハチマキやゼッケンを集める児童もいました。賞のある競技には優勝は果たせなかったものの全て入賞しました。マラソンにおいては、上位を独占し努力の結果が出ました。

一番うれしかったことは、マラソンの順位にかかわらず愛育園の全ての児童が最後の力を振り絞り1人でも抜いてゴールする姿に感動しました。頑張った自分に涙を流す児童もいました。何でもいい。全てのことに一生懸命取り組むこと。手を抜かず自分の力を出し切ることを肌で感じ、これからも児童の自信とやる気につなげていきたいと思っています。

先生方も1ヶ月間ご苦労様でした。

施設運動会に参加させていただいて

園内保育保育士 久保田直子

去る10月4日に行われた施設運動会に参加させていただきました。会場に到着し、全員で礼をして臨んだ運動会。園全体の心が一つになって数々の素晴らしい成績をあげました。メダルにつながった活躍は、おそらく多くの方が書いて下さると思いますので、私は、メダルにはつながらなかったけれど素晴らしかった姿を3点書きたいと思います。

1点めは幼児さんです。一日という長い運動会でしたが、ぐずる子もなく、競技やリズム、開会式や閉会式の体操に参加する姿に成長を感じました。小さいながらも運動会という行事を彼らなりに理解し参加する姿は、実にほほえましいものがありました。

2点めはパン食い競争に出場した女子児童の姿です。パンを吊した紐が揺れてしまい、口だけではなかなかとらえることができずにいました。けれども彼女は、どんなに時間がかかっても何度も挑戦し、最後まで決して手を使うことはなかったのです。実はこの競技、パンを手で押さえたり取ったりして、やすやすとゴールした人たちもいたのです。中にはそれで良い順位の人もありました。そういった人よりもずいぶん遅れてゴールした彼女の姿が私の心に残りました。

3点めは、ある男子児童の姿です。彼は今回の運動会での出場種目はほとんどありませんでした。しかし、競技開始から競技終了まで座席の一番前でメガホンを手に、声を限りに惜しみない声援を仲間を送っていました。仲間のために力いっぱい応援する姿も素晴らしいと、彼の姿から学ばせていただきました。運動会終了後に、青谷副園長先生が彼のこの姿を皆の前で褒めて下さいました。その賛辞に、彼の胸にメダルが光ったような気がいたしました。

運動会終了後の片づけも職員・児童の協力で、あっという間に終了。園全体で円陣を組んで運動会を振り返ることもできました。園長先生が皆の頑張りを褒めて下さり、一人ひとりが輝いたように思いました。そして全員による感謝の礼で会場を後に



しました。「運動会の競技の順位としては当園は優勝ではなかったかもしれないけれど、トータルでは優勝だ」と誇りをもてた一日でした。

マラソンと施設対抗リレー

保育士 富沢正樹

施設運動会の種目は、どの種目も練習をして当日をむかえるのですが、とりわけ練習に練習を重ねて本番に臨む種目が2つあります。マラソンと施設対抗リレーのムカデ競争です。どちらも1か月以上も前から練習を開始します。

今年は施設運動会の直前に愛育園運動会も行いましたので、どの子も余計に熱が入って練習しました。その甲斐あってマラソンでは各年代で入賞者が続出し、高校生男子の部では1位から3位まで愛育園の児童が入る事が出来ました。もともと足の速い子がいたのも事実ですが、これだけ多くの児童が入賞できたのは間違いなく日々の練習の賜物であると確信しています。何より子ども達はその事を実感できていたように思います。それだけ子ども達は毎日の練習を頑張りました。中には、マラソンが得意で練習も頑張ったのにスタート時の混雑に巻き込まれて転倒してしまった子もいました。以前なら走るのをやめて拗ねてしまうような子なのですが、それまでの練習を無駄にしなくなかったのでしょうか、ゴールまで頑張って走り続けました。出場した全ての子が結果に関わらず、力を出し切ったマラソンだったと思います。

そしてもう一つ、力を注いできた施設対抗リレーは、昨年、一昨年と同様に2位という結果に終わってしまいました。「今年こそ絶対、優勝」と並々ならぬ思いを胸に児童と一緒に練習をしてきましたので、残念でなりません。

子ども達はスタートのタイミングが合わなかったり、転んでしまったりして意気消沈してしまう事もありましたが、目標の優勝に向かって励まし合って頑張ってきただけに優勝して喜びを分かち合いたかったのですが、更なる大きな目標として来年に持ち越したいと思います。

来年も児童と職員が目標にむかって一つになれる運動会を目指していきたいと思います。

施設運動会

まごころ・そよかぜホーム長 石崎 早織



恭兵くんがトップで帰ってきました。三連覇です。



施設対抗リレー（百足リレー）職員連

10月4日は施設運動会がありました。私たちはこの施設運動会に向け9月から練習に取り組んできました。マラソンは毎日練習をしました。練習を重ねて行くごとに子ども達のタイムも少しずつ短くなっていき、一秒でも縮まればみんな喜び合いました。百足競争では今年もまた職員レーンで出させていただきました。去年は2位という結果に終わり、本当に悔しい思いをしたので、今年は絶対優勝！！という思いで練習に励んできました。子ども達も同じ思いでそれぞれチームに分かれ練習してきました。最初は足も揃わず合わせる事に精一杯でしたが、練習を重ねるたびに足が揃い、少しずつ走る事ができるようになってきました。ちょっとずつできる事が増える喜びを子どもたちと一緒に味わうことが出来ました。本番ではレーンに着くと、とても緊張しましたが、とにかく声を出す！！を目標にスタートしました。各チーム練習の成果がそれぞれ発揮出来ていました。結果は残念ながら2位でしたが、みんなが最後まで諦めず頑張れた事が一番良かったと思います。この悔しさをばねに来年こそは優勝目指して頑張りたいと思います。

また今年の良かった所はみんなが気持ちを一つにし、競技一個一個を全力で応援出来たことです。自分が出ないから関係ないという子どもがいなく、競技に出ている仲間を一生懸命応援している姿がたくさんありました。その結果どの競技もいい成績を残すことができたのだと思います。子ども達のいい姿が増えていくたびにとても嬉しく思います。次は愛育園祭です！！愛育園祭に向け全員で気持ちを一つにし、最高のものをつくり上げたいと思います。

施設運動会

まごころホーム保育士 上村美咲

今年の運動会は表彰される子ども達を増やそう！そんな目標のもと運動会に向け練習をしてきました。マラソン練習も小学生の女の子でも3キロ走るようになり、幼児さんも職員と一緒に練習をしてきました。日に日にタイムが変わる子や時にはだらだらやってしまう子どもも。ダンス練習やリレー練習等時間をみつけて行い当日を迎えました。

どの種目も全力で取り組む子ども達。応援も前のめりになりながら全力で応援する職員、子ども達。順位が遅くなってしまっても最後まで走り、それを応援している子ども達を見るとお互いを思いやる気持ちが育ってきたのかなと嬉しく感じました。

表彰式ではオレンジのはちまきをした愛育園の子ども達は何人も並び、団体種目でも表彰され、その姿を見て感動してしまいました。



全力で取り組んだこの運動会でのパワーを次の行事、愛育園祭に向けて！！

施設運動会児童の感想

- 今年が最後の運動会でした。出る種目は全て優勝を狙っていました。マラソンは3位、むかでリレーは2位、児童対抗リレーは3位でした。自分が頑張って優勝してみんなを喜ばせたかったけど出来なくて悔しかったです。でも、みんなと力を合わせてできた運動会はとても良い思い出が出来ました。(高校3年 Hくん)
- 僕は、パン食い競争とマラソンの2つにでました。どちらも緊張したけど頑張りました。その後は出る種目は無かったけど、みんなの応援を頑張りました。みんなが頑張っている姿を見て僕も一生懸命応援しました。来年も自分が出ない種目の時は精一杯みんなの応援を頑張りたいです。(高校2年 Aくん)
- マラソンは当日調子も良く17位で帰ってくることが出来ました。一番最初の坂道はゆるやかだけど、長くて体力が一番取られてしまった。最後はとても疲れてしまったけど愛育園で行ったマラソンは27位でしたが、今回17位と10位も縮まる事ができてとっても嬉しかったです。(高校1年 Mさん)
- 百足リレーは去年準優勝だったけど、今年こそは優勝したいとみんなが心を一つにして頑張りました。また閉会式でマラソンと百足とリレーのメダルをもらいました。努力賞で私の名前が呼ばれメダルをもらいました。嬉しかったです。また頑張りたいと思います。(小学校6年生 Uさん)



おもちゃ王国

まごころ・そよかぜホーム長 石崎 早織

今年もおもちゃ王国様からご招待を頂き子どもたちと行かせて頂きました。今年はとても天気も良く、おもいっきり遊ぶにはちょうど良い天気でした。

おもちゃ王国に着いてからは各グループに分かれ、たくさんの乗り物に乗りました。コーヒーカップや観覧車、ゴーカートに、ジェットコースター……。本当に思う存分子どもも職員も一緒に楽しむことが出来ました。釣り堀では小5の女の子は4匹も釣ったと大喜び！！みんなでおいしく食べたようです。観覧車に乗ると、ちょうど紅葉もとてもきれいでみんなから「すごいきれいだね～」という歓声も！！楽しい時間もあっという間に終わってしまいました。子どもたちからはまた来年も来たいな～♪と今から楽しみにしている様子でした。



軽井沢おもちゃ王国に行ってきました！

あおぞらホーム保育士 山口 亮

この時期になると児童の中でも話題になる軽井沢おもちゃ王国。今年もまだかなあ・・・と楽しみに待っていた所、軽井沢おもちゃ王国さんから招待をいただき 10 月 25 日に行ってきました。行きのバスの中ではその日に回りたい場所を決める声で盛り上がっていました。いざ到着すると天気も良く、去年に比べ暖かい気温でした。到着してからは班行動です。班は高学年から低学年までの班となっており、それぞれ好みは違います。なので、回りたい箇所はたくさんあるのですが・・・、班の中にいる高学年の子は低学年や幼児さんが行きたい場所があると「じゃあそこから回ろうよ」と班の先生に伝えてその場所を回る姿がありました。

今までは自分の事で精一杯だったり、周りが中々見えない子もここではしっかりとお姉さん、お兄さんとして動く事ができていたかと思います。またアトラクションの中には、おもちゃがたくさんあったり、人形がたくさんあったりと・・・時間を忘れてみんなで楽しめたかと思います。集まる時間、帰りの時間などを事前に伝えていましたが守る事ができ、挨拶もきちんとして帰ってくる事ができました。児童の中には「来年もまた行けるかなあ」という声もあり、「頑張ってたらかきっとまたいけるよ」と話しながら帰ってきました。

課外 2 学期遠足 in 戸隠

保育士 酒井悠紀

10 月 12 日、天気は快晴。今学期の遠足は戸隠ハイキング、池巡りコース。今年は戸隠でのキャンプが台風のため、戸隠にて行えなかったため、この機会に是非連れて行ってあげたい、そんな思いで計画、実行されました。

池めぐりコースは戸隠神社中社をスタートとし、小鳥ヶ池、硯石、鏡池、みどりが池を回る 1 周約 1 時間 30 分のコースです。子どもの足でも 2 時間あれば、らくらく着くはず！！と子どもと一緒に歩き出しました。

歩き出すとすぐに一つ目の目的地小鳥ヶ池に到着しました。時間もちょうどお昼時、ここで昼食タイム。調理の先生方に作っていただいたお弁当を美味しく頂きました。池のほとりに腰掛、お弁当を食べている姿に、ほっこりしました。ゆっくりとお昼を取り、いざハイキングの再開です。スタートしたばかりの頃はなだらかな坂道でしたが、硯石を目指す頃には、あたりは急な山道になっていました。低学年の女の子は手を取り合いながら、高学年の男の子たちは我先に進んでいきます。あたりはすっかり紅葉に包まれていました。普段山道など無縁な子ども達、足取りも重くなっていきます。しかし、「疲れたー。」「帰りたいー。」などと言い出す子は 1 人も居ま



せん。心も体も強くなってきました。

そして、硯石を過ぎ、いよいよ鏡池へと向かう頃、次第にすれ違う人が増えて来ました。子ども達は元気に挨拶を交わします。観光で来られている外国の方にも、日本語で堂々たる挨拶、返答がないことにショックを感じていました。すると、子ども達は、ハローと声をかけはじめた子ども達、とても格好良い姿でした。

鏡池に到着すると、風もなく、戸隠連邦の山々が綺麗に水面に映し出されています。子ども達も、これには驚きを隠せず、大はしゃぎの様子でした。記念撮影もここで済ませ、最後の目的地へと向かいます。道中、小川が流れ、良く見ると岩魚の姿もあり、へとへとだったはずの子ども達が一斉に岩魚を追い掛け回していました。まだまだ余力は十分、最後の力を振り絞り出発地点の中社まで戻りました。せつかくの中社、お参りをしない訳にはいきません。みんなて手を合わせ、無事課外の遠足が終了したことに感謝です。

天候にも恵まれ、子どもと一緒にハイキングが出来、本当に良かったです。

まごころホームだより

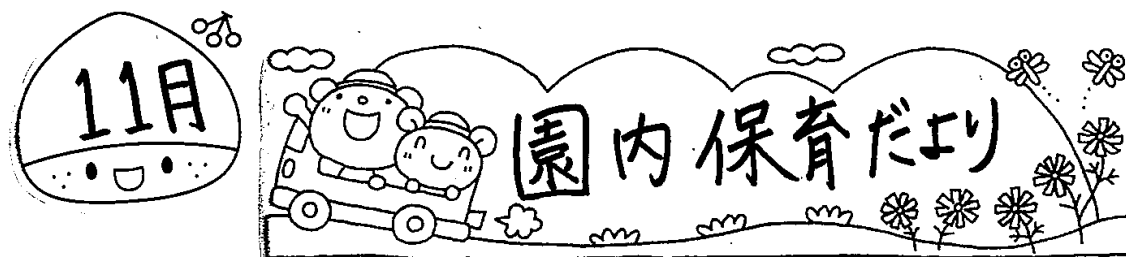
保育士 竹田悠希

10 月に入り、朝夕と肌寒く感じていましたが、最近ではより一層冷え込むようになり、厚手のジャンパーを羽織って生活する児童が増えてきました。

10 月 4 日には、施設運動会が東条小学校で行われました。幼児さんは勇氣 100% や太鼓の音楽に合わせて踊ったり、宝探しに出場したりしました。当日までの練習ではなかなか堂々と踊れない子やふざけてしまう子もいましたが、当日では職員に手をひかれながら、元気よく入場行進することができました。また小学校の高学年から中高生は今年大ヒットした曲、アナと雪の女王を踊りました。曲が流れると「ありの～♪」と歌いだす子もいました。帰園するなり、マラソン練習では 17 時半から土手を走り記録を更新したり、夕食後はアナと雪の女王を練習して振り付けや立ち位置を覚えたりしていました。本番は、緊張しながらも楽しく踊ることができました。どの子も施設運動会を通して、最後までやり遂げることができたという達成感も味わえたのではないかなと思います。

そして、10 月 18 日にはホーム食がありました。今回は幼児さんから職員まで踏んだり、こねたりしてうどん作りをしました。それはとてもコシのあるうどんになりました。トッピングもいろいろな種類があり、いろいろな味を楽しんで美味しく食べました。まだ、園の畑で植えたさつまいもも、この時期、大収穫となりました。時期のものをこの時期に食べ、いろいろなウイルスに負けないよう手洗い、うがいを今から徹底していき元気に学校へ通えるようにしていきたいと思います。





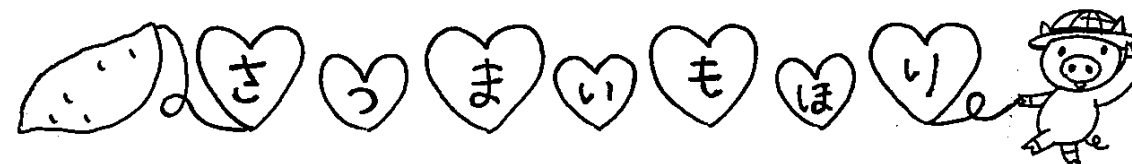
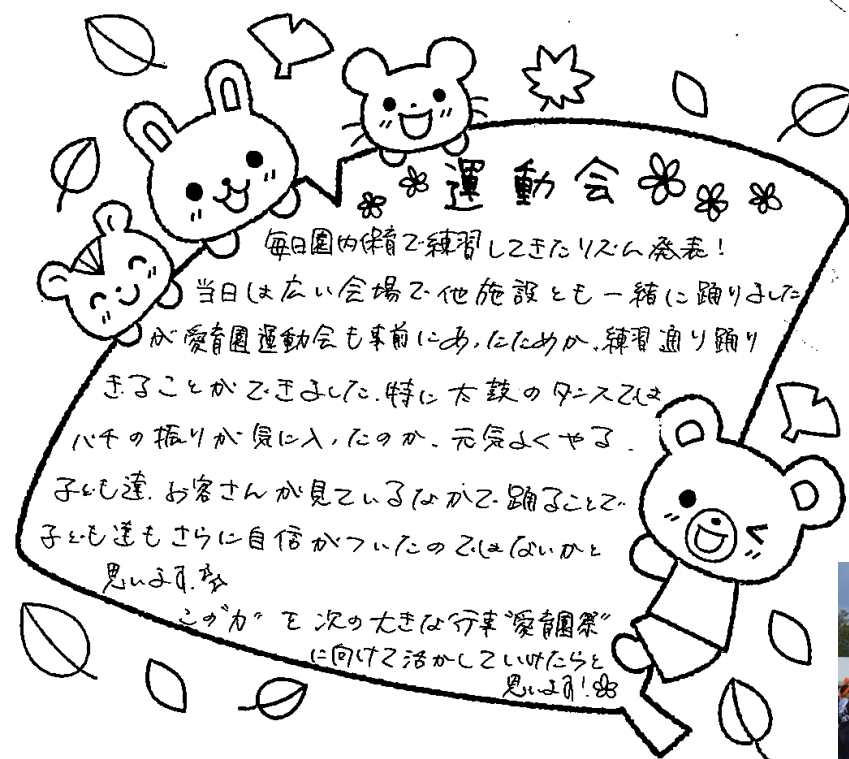
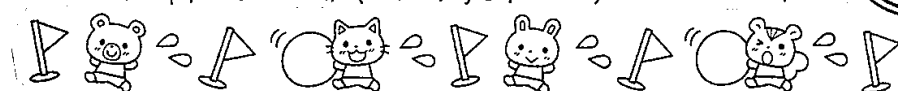
★ 10月4日は施設運動会が行われました。天気にも恵まれ、まさに運動会日和でした。幼児さんが出る種目は2つ!!



その中の1つが宝探しでした。それぞれ年齢に合わせて、宝物を目指してかけっこ競争です。未満児さんは自分のペースで一生懸命走り、見事お宝をゲット♪年少さんからはお宝もそうですが、他の子どもに負けないよう早く走ることも頑張っていました。

みんなそれぞれ宝物をもらい、とても嬉しそうでした。

一生懸命走っている幼児さん達の姿をたくさん見ることができました。



5月に植えたさつまいも。以前、じゃがいも掘りをした時から、早くさつまいもも掘りたいなあ♪と子どもたちはとても楽しみにしていました。そして、10/17(金)いよいよ収穫です! 野菜作り名人の青木先生に「スコップで掘る時は、さつまいもを傷つけないように、まわりの土を掘っていくんだよ」とポイントを教えてもらうと、みんな夢中になりながらも、大切そうにそ〜と掘る姿がありました。—しかし、一生懸命掘っても、なかなか抜けません!! それでも、諦めずに掘り続け、出てきたさつまいもの



大きさに子どもたちも保育者もビックリ!! 予想以上の大きさのさつまいもが沢山収穫でき、大満足の日となりました。

自然の恵みに感謝し、みんな美味しく食べられるといいですね♡



ただいま、忍者の修行中!!



園内保育では、1/2に行われる愛育園祭の発表に向けて、日々、練習...いよいよ、修行中!? です。実は、今年の園内保育の劇は、子どもたちが可愛い忍者に扮して登場します。そのため「修行中」なのですよ。

ちび、こ忍者たちも、いろいろな修行の修行をしています。中にはなかなか難しい術もあります。さまざまな年齢や発達に合わせて難易度を変えながらサポートしています。どの子も修行を始め、頃よりも上達してきています。しかし、簡単にできるような、たとえ、よそ見を少し集中していても失敗してしまうもの。修行に気合いが入っているかどうかは、返事をわかりません。「次は〇〇の術!」「はい!」...気合いが入っている時は、さびさびとした返事や忍者ポーズに表れます。

今回の活動を通して、子どもたちに『集中力』『忍耐力』『頑張る力』が身に付いてくればいいなあ...という願いをもって励まし、援助しています。

あおぞらホームだより

保育士 竹内 貴裕

日増しに秋の深まりを感じる季節になり、子ども達も最近の朝の寒さに布団から出てくるのを渋るようになってきており、朝の着替えの時間が長くなってしまっているようです。

10月4日に施設運動会がありました。やるなら勝ちに行くというスタイルの中でこの日のために1ヶ月間、毎日みんなで夕方から3キロを走ったり、夜は体育館でムカデリレーの練習をしたりと本当に忙しく、厳しい日々だったと思います。1週間前には愛育園運動会もあり、良いモチベーションで運動会に望めたかと思います。運動会でもみんなが一生懸命取り組む姿があるのは当然として、自分が出場しない種目であっても愛育園の仲間の応援を一生懸命している姿もありました。職員が子どもを応援するという姿は他の施設でもありますが、子ども同士の応援というのは他施設でも多くない中で、愛育園の子ども達の思いやりの力を感じました。



みんなが楽しみにしていた施設運動会が終わると同時に、ここ1ヶ月続けてきたマラソンの練習も終わり、毎日の夕方に子ども達の物足りない顔をよく見るようになりました。しかし、10月は市民運動会や球技大会、おもちゃ王国があり、まだまだ行事が盛りだくさんあります。さらに11月の愛育園際も近づいてきたということもあり、中高生の数人はもう動き始めている人もいます。またこの大きなイベントに向けて職員と子どもがよりいいものにしていこうとまとめ、これからの行事をしっかりと楽しめるように普段の生活からしっかりと過ごせるようにします。

調理室だより

調理員 伊藤慈子

愛育園では、自立の一環として行っている高校生の女の子たちによるお弁当当番というものがあります。

これは、高校生の女の子たちで2人ずつペアを組み、朝5時30分から『とんとんキッチン』を使って、高校生全員分のお弁当を作ります。週末は高校生分は減りますが、代わりに、バイトや部活、少年野球などでお弁当の必要な子の分を作るので、月曜日から日曜日まで毎日作っています。

お弁当のメニューは栄養士の先生が考え、材料は調理の方で切ったり、下ゆでしたり、作るのが難しいものはある程度のところまで作り、準備しておきますが、基本的には子ども達だけで加熱や調味をし作っています。

短い時間の中でお弁当を作るためには、一人で自分勝手にやるのではなく、ペアで分担したり、協力したりしなければなりません。ペアといっても毎回同じではないので、作るのに慣れない子・苦手な子は教えたり助けたりしながら、時には早番の調理の先生に手伝ってもらいながら、毎日お

弁当づくりを続けています。早起きして当番という責任感をもって頑張っている子ども達はとても偉いなあと感心しています。

そんな中、調理の方で時々ある大量のお弁当づくりの時や手作りおやつの時などの忙しいときには、いろいろ察してくれて「手伝うよ!」と言って来てくれて厨房に入り、手伝ってくれることも良くあり、とても助かります。また、ホーム食の時の活躍も凄いものです。

こんな時、お弁当当番の経験が子ども達の自信になり、やがて自立に繋がっていくのだと改めて思います。

お手伝いをしてくれている時に、子ども達から「今日のお弁当作るの大変だったあ」「今日は上手にできたよ」などの感想や「このおかずの時、この材料だと水分が出て、いつものおいしい味じゃなくなるから、入れない方がいいかも」「この材料、水分切っといってくれると明日揚げやすいな」「このおかずおいしいからまたメニューに入れて欲しい」「このおかず、人気だよ」「これ詰めずらいかも」など、色々お弁当づくりでの話をしてくれます。

調理の方としても、現場の声が聴けると、次はこうしようとか、こうしてあげたら作りやすいかも…と、変えていけるので有難いです。これからも調理室ならではの子ども達との関わりを大切にしていきたいと思っています。

